

平成19年11月28日・全国町村長大会
福田康夫内閣総理大臣あいさつ

福田康夫でございます。

先にご挨拶をさせていただきまして大変恐縮でございます。お許しをいただいで、一言ご挨拶をさせていただきます。

全国町村長大会が開催されるにあたり、日頃から住民の福祉の増進と地域社会の発展のため、行政の最前線でご尽力いただいております町村長の皆様に、まずもって御礼申し上げます。

これまでわが国は、経済社会全般にわたる構造改革に取り組み、景気の回復・雇用の拡大など、全体としては一定の効果を上げてまいりました。しかし、わが国はなお、本格的な人口減少社会の到来、少子高齢化に伴う社会保障費の増大、内外経済の構造的な変化、地球環境問題などの中長期的な大きな課題に直面しております。また社会情勢の変化の中で、「格差」と言われる様々な問題も生じております。

とりわけ地方は、高齢化社会に直面し、そのうえ人口減少に伴い、学校、病院等、暮らしを支える施設の利用が不便になり、さらに人口が減るという悪循環に陥っております。これらの現象が顕著に現れているのが皆様方の地域であります。農山漁村では特に、その傾向が著しく現れております。

その一方で、近年、都市の団塊世代の一部に地方回帰の傾向もみられることから、移住や交流の促進により、一般住民や外部の者を交えてのコミュニティの再生等が考えられているところであります。このような地域の活性化の取組みを通じ、持続可能な発展を支える環境を整えていくことが重要でございます。皆様の地域に応じた施策に対し、国としても地方の再生に向けた戦略の立案・実行を一元化した地域活性化統合本部を中心に支援を行うことといたしました。

地方における生活の不安の解消も重要な課題です。とりわけ医師不足は深刻な問題であります。国としては医師不足の解消を図るとともに、誰もが地域で必要な医療を受けられるよう、都道府県と力を合わせて地方の医療体制の充実を図ってまいります。

併せて、地域における産業や生活福祉の基盤となる真に必要な道路網の重点的・効率的な整備や地域公共交通の確保に向け、地域の実情に応じた支援を行ってまいりたいと考えております。

私は、将来なるべく日本の姿を見据え、自立と共生を基本に、都市と地方も、自助努力を基本としながらも、お互いを尊重し合い、助け合う社会づく

りを目指したいと思います。

皆様方におかれましても、行政の運営にあたって、国と歩調を合わせつつ、一層の行政改革にも取り組まれるようお願い申し上げます。

また地域の活性化のためには、地方分権の時代を担う人材が必要であります。人材の確保、育成について積極的に取り組んでいただくようお願いいたします。

その上で、教育や福祉など、必要な行政サービスの提供や自主的・主体的に地域の活性化に取り組むための財源が確保されるよう、地方とともに、国として努力してまいります。

終わりにあたりまして、皆様方の一層のご活躍を祈念して、挨拶といたします。